

秋まき小麦のは種量適正化

～気象と時期に応じたは種量で、倒さず丸々した麦を～

活動年次：令和3～5年
 対象：JA道央千歳市麦採種生産部会13戸

石狩農業改良普及センター本所

1 課題設定の背景

近年、は種時期～越冬前の気温は平年より高め（図1）

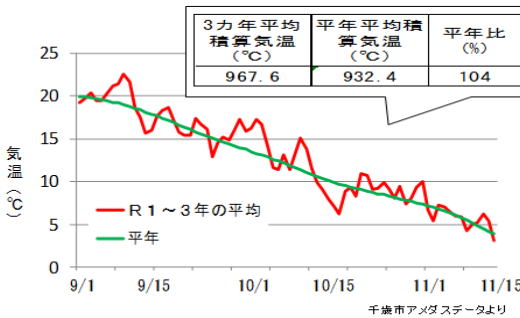


図1 千歳市の過去3年間(H31～R3)の平均気温

地域のは種量は、標準より多め（表1）

	は種時期	は種量	
		重量(kg/10a)	粒数(粒/m ²)
北海道（道央）の標準は種量「北海道のまづくり」より抜粋	～9/19	7.0～8.0	180～200
JA道央千歳種麦生産部会の2カ年の平均(R2～3年産)	平均 9/17	8.5	210前後



収量確保のために、は種量はちょっと多くしている

越冬前も収穫時期も茎数は多め（表2）

表3 作況調査より

	地域	越冬前茎数 (本/m ²)	収量調査時穂数 (本/m ²)
H30年産	千歳市	1,286	614
	本所管内平均	1,182	647
R1年産	千歳市	2,190	676
	本所管内平均	1,955	654
R2年産	千歳市	1,360	723
	本所管内平均	1,553	698
	目標値	1,300～1,500	580

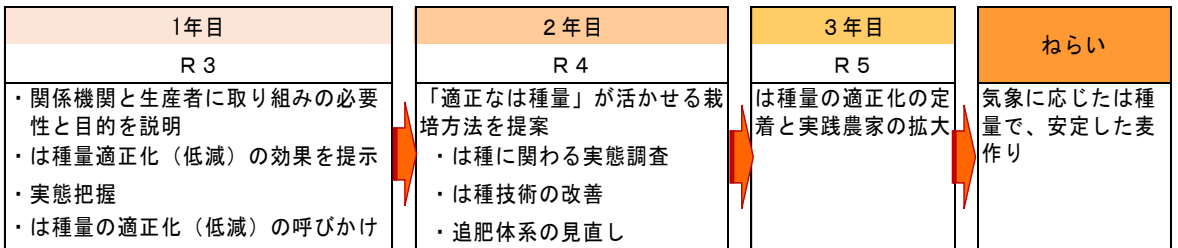
収穫時期は毎年、ドキドキだ。



倒伏・細麦の懸念あり

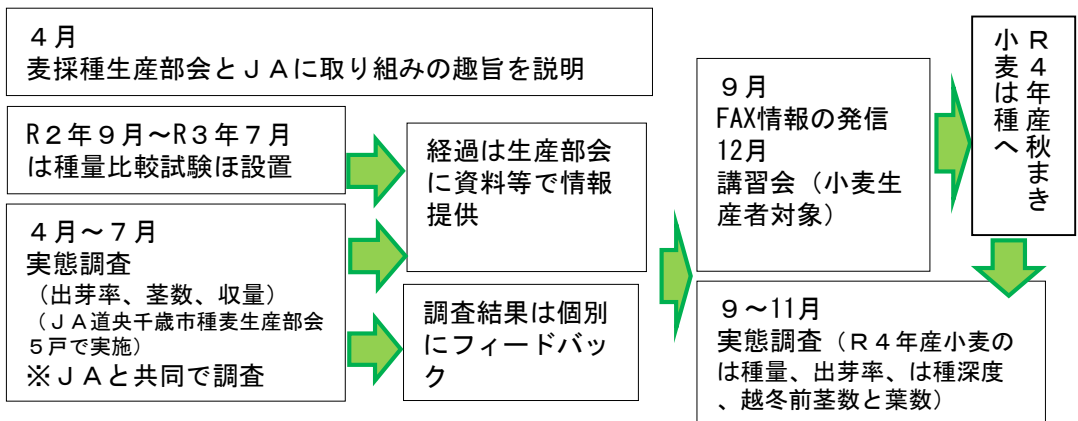
は種量の改善（低減）で越冬前の過繁茂を回避

<3年間の活動の計画とねらい>



2 活動の経過と内容







(1) 活動経過



(1) 活動内容

ア 試験結果から、は種量低減のメリットを情報提供

① 越冬前の葉数、根量は多くなる

は種量 (粒/m ²)	葉 数	根 量	根の 乾物比
5.7kg/10a (120粒/m ²)	 7.1葉		186%
8.6kg/10a (180粒/m ²)	 6.7葉		135%
9.5kg/10a (200粒/m ²)	 6.3葉		100%

② 春（起生期～幼形期頃）の茎葉の黄化や老化茎葉が少なかった



120粒/m²区 180粒/10a 200粒/10a
※写真は5/10の各区の畦間の様子

表3 普及センターが勧めるは種量とは種時期の目安

	適 期	
は種時期	9月15～19日	9月20～25日
は種粒数	180粒/m ²	200～255粒/m ²
は種量	7.2kg/10a	8.0～10.2kg/10a

※R3年度千粒重は40gでは種量を算出

イ 部会・JAの協力の下、広く（FAX情報、講習会）は種量の適正化を呼びかけ

3 活動の成果と課題

(1) は種量を低減した生産者が増えた

JA道央千歳市麦採種部会では6戸が前年よりは種量を低減（表4、5、図2）

表4 部会の平均は種量とは種日

	R2年産	R3年産	R4年産
平均は種量	8.5	8.5	8.0
平均は種日	9/16	9/18	9/14

表5 前年度と比較したは種量とは種日

前年度は種量との比較	戸数 (戸)	平均は種量 (kg/10a)	平均は種日 (月日)
減量	6	7.8	9/13
増量	1	7.5	9/15
同じ	5	8.4	9/16

越冬前茎数は、は種量が多いほど多い！

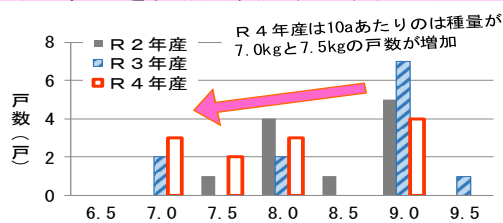


図2 千歳市麦採種生産部会10aあたり平均は種量の変化

表6 R4年産は種量別越冬前茎数

は種量 (kg/10a)	戸数 (戸)	調査戸数 (戸)	越冬前茎数 (本/m ²)
7.0	3	3	1,511
7.5	2	2	1,602
8.0	3	3	1,722
9.0	4	2	2,000

(2) 収量確保に向けた今後の課題

- ・ 分けつしづらい畑（低pH、排水不良、地力不足、雪解けが遅い）は注意を
- ・ 冬枯防除を徹底することも、忘れずに

収量確保を阻害する要因の解消も大切ナノダ



4 今後の活動 R4年産に向けて

は種技術の改善

- ・ 適切なは種床作り
 - ・ 適正なは種深度の徹底（写真右）
 - ・ 作業機に応じたは種作業の改善
- 追肥体系の見直し
→試験ほ設置中

